

貧酸素水塊速報 (2017年)

【発行】 ○ 千葉県水産総合研究センター
 ○ 神奈川県水産技術センター
 【協力】 ○ 千葉県環境研究センター
 第三管区海上保安本部
 ○ モニタリングポスト(海上保安庁, 国土交通省 関東地方整備局)
 千葉県農林水産技術会議
 内湾底びき網研究会連合会
 ○ 東京都環境局
 (国) 国立環境研究所
 (今回の速報は“○”の機関の観測データを使用して作成しました)

平成29年6月1～2日観測結果

貧酸素水塊は、内湾北部から盤洲や横浜港の沖まで広く分布しています(図1)。特に中央部には、溶存酸素量1.5mL/L以下の強く貧酸素化した水塊がみられます。縦断ラインでの鉛直分布をみると、貧酸素水塊は水深20m以深にあり、その規模は直近10年の平均をやや上回って、拡大傾向です(図2, 3)。水温は表層19～23℃、底層15～22℃で、内湾北部～中央部では成層が発達してきています。

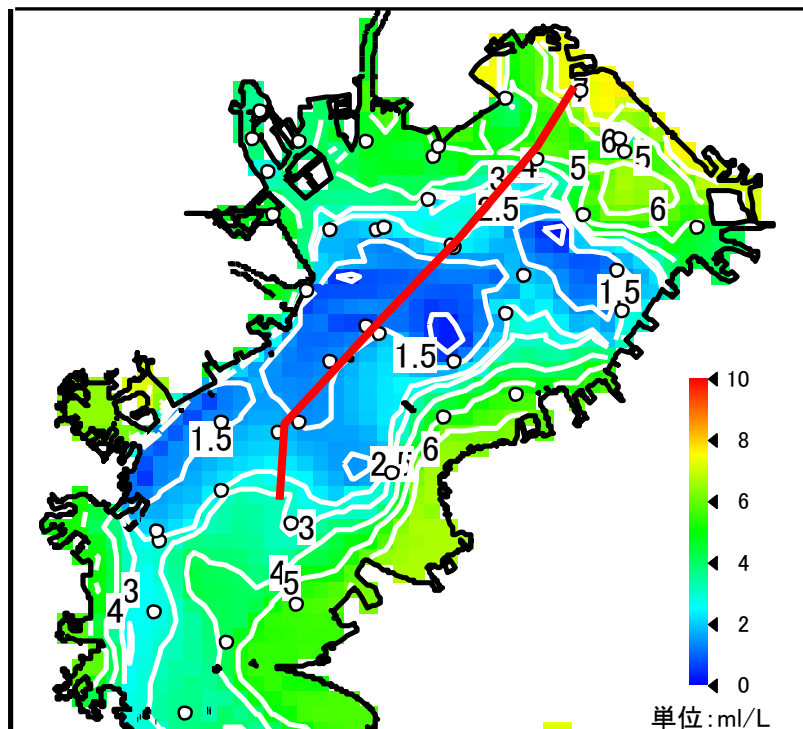


図1 底層の溶存酸素量分布(赤線は縦断ライン)

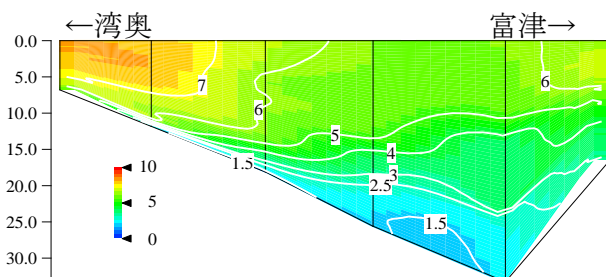


図2 縦断ラインでのDO鉛直分布

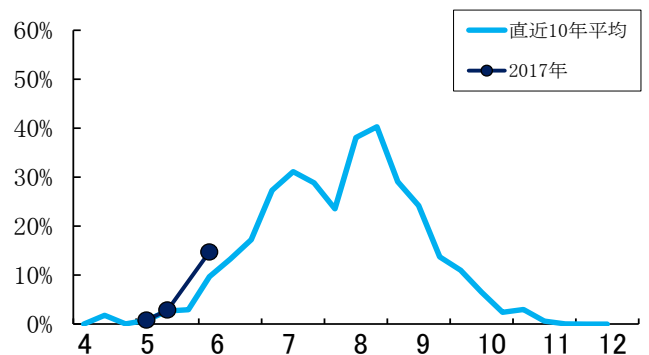


図3 貧酸素水塊の規模

(左図で貧酸素水塊(2.5mL/L以下)が占める割合)